

後も、入園申込みの状況、人口推移等を勘案し必要人員の確保を行います。

③保育士からの勤務内容と業務改善要望を把握しているか。

年間を通じて保育士との個人面談や職員組合との交渉を通して聞いています。

④保育施設利用者から、町への要望や希望の把握は。

毎年それぞれの園で保護者アンケート、個人懇談、家庭訪問、保護者会等の様々な機会をとらえて聞いています。対応可能なものは、順次改善等に取り組んでいます。

⑤業務サポートスタッフの増員を提案します。

現在、園の規模を考慮して、芳野こども園、かがみの中央こども園には事務員、用務員をそれぞれ1名配置しています。芳野こども園には看護師を配置し、サポートしています。業務によっては外部へ委託を行います。

⑥保育士不足が危惧されている中で、執行部と現場保育職員との意見交換をする機会を。

保育士と執行部との意見交換は行っていますが、更に充実を図る意見があれば、出来る限り対応します。

⑦旧大野保育園の跡地利用の計画は。

解体撤去工事後更地にし、定住促進を目的として用途を住宅用地に制限した上で、一括して売却します。

★地域おこし協力隊の受け入れについて①経緯は。

地域からの強い要望もあり、そうした観点から地域を見ると、町内の事業所で募集しても人が集まらない実態があり、今の状況を打開するため、取り組むことを考えました。

②計画予定と進捗状況は。

事業所を回り協議を行った上で、具体的な内容の組み立てをしています。

7月上旬を目途に内容を整理し、活動が可能と判断した内容について募集要項を作成します。募集をかけた来年4月より活動開始予定です。

★町防災イベント「イザカエルキャラバン」鏡野」について①目的や効果は。

将来の地域防災を担う子どもたちの知識や技術の向上です。

地域防災の担い手として期待される子育て世帯の地域防災活動への参加促進を図り、町内の地域防災力の向上を目指します。効果としては幼少期からの経験が活用されることです。

②色々な提案を何回もしたのに協議をしないで計画したのはなぜか。

様々な検討を重ね、全体計画はまとまりつつあり、詳細な説明には至っていません。

★地域活性化イベント「地域みらい会議」について①目的や効果は。

新規事業で提案された事業で、本年度「地域活性化支援事業」とし

て実施しています。

人口減少が懸念される中、リーダーを作り出すことが大切で、現在、未来希望基金事業を通じ、各地域の活性化のために中心的な役割を果たしている12の地域づくり協議会が現在抱えている、リーダー育成を踏まえた課題等を整理・改善し、更なる地域の活性化の効果を高めたいと考えます。

②進捗状況と今後の予定は。

今年2月に実施の「地域づくり講座」を起点として、4月の区長会総会の中で、再度、概要的な話をした上で、各地域づくり協議会と協議を行い、本日から地域づくり協議会をまわっている状況です。

今後、協議会との協議の中で、各地域から出てきた課題や問題点を整理し、来年2月を目途に、12の地域づくり協議会を集めて報告会を行います。来年度以降、課題等の解決を図るスケジュールを考えています。

★絵になる町かがみのSNS魅力発信事業について①予算の内訳は。

SNS（ソーシャルメディアネットワークサービス）管理費が40万円、インスタグラマーへの委託料が70万円、研修会費用が10万円、フォトコンテストが20万円、スマートフォンのカメラスタンド設置費用が100万円、合計240万円です。

②目的と計画と効果は。

SNSを効果的に利用して町の魅力発信に努め、絵になるスポット

や素材が数多く存在する町を写真や動画で効果的に発信することで、今まで伝えきれない町の魅力を国内外に積極的に発信でき、インバウンドも含めた観光振興や移住・定住の促進に繋げることができると考えます。

★町の子供たちに夢を与えようプロジェクトについて①予算の内訳は。

講師を招聘する経費が33万円、講座の材料代等事務経費が20万円、合計53万円の予算を計上し、社会教育費の社会教育学級開設費3,195千円の中に含まれています。

②目的と計画と効果は。

町は大学やJAXA（ジャクサ）など特色のある団体との繋がりを有し、この団体から講師を派遣してもらい、子どもたちに学校では体験できない実験等を交えた体験の機会を提供し、自分の持つ可能性を発掘し、将来へ向けて夢と希望を持ち、町の素晴らしさを実感し、将来の定住化に繋がることを期待します。

★寄附金の取扱いについて①受付の内部の規定を文書化したものがあるか。

当時は内部規定や取り決めは存在しません。

②当時の担当課長は「寄附金は受取者が責任をもって処理する。」と議事に報告したのか。

受取者が入金処理を他の職員に委ねることもあったと答えています。

★人口減少・少子化対策について①第2次総合計画にある2020年度の出生数の目標値110人は達成できるか。

平成26年度の現状値が102人に対して、2020年度の目標値を110人に設定し、このとり支援事業、育児用品助成事業、乳幼児・児童及び生徒医療費補助事業などの子育て支援の充実に取り組みました。

実績値は、平成27年度94人、平成28年度90人、平成29年度91人です。2020年度に目標値110人の達成は大変厳しい状況です。今後も子育て支援の充実に努め、少子化対策に鋭意取り組みます。

②出生率の向上を考えると、2030代の助成に向けた環境づくり対策は。

若い世代の人口減少に歯止めをかけ、将来にわたってある一定水準の人口を保ち、多くの施策が連携し、住みやすく魅力のある町にする必要があります。

③女性向けのイベント開催や、ホームページ等の活用で、関係交流人口を増やす対策を。

女性のみの特化したイベントは実施していません。女性を含む全ての方に町全体を知ってもらい、移住・定住につなげていく事業として、鏡野町5大イベント、かがみのファン創出事業、移住・定住フェアなどを実施しています。町のホームページに掲載のPR動画や観光・移住紹介サイトで情報発信しています。